

音

まず、テレビの音が邪魔になった。一日中つけっぱなしにしていたテレビを全く見なくなった。部屋には音があふれていた。時計の音、ストーブの音、冷蔵庫の音。そのひとつひとつが邪魔になって、ひとつひとつのスイッチを切った。スイッチを切るたびに、小さな部屋が世界から少しずつ切り離されていくような感触があった。わたしは少し寂しくて、すこし安心した。わたしは音が怖かった。動く足音がしてしまうので、わたしは一日をできるだけ動かさず過ごすため苦心した。

呼吸の音。

心臓の音。

まばたきの音。

いつの間にか、わたしは音を探していた。どんなにスイッチを切っても決して消えない音。それはどこにあるの。

おやすみと言いきびれたね」と」と窓のむこうで夜が始まる

